

はじめに

新宮市教育委員会 教育長 速水盛康

今年も、市内小・中学校の先生方の熱心なご指導とご協力により、人権作文集「春を呼ぼう」第十八集を発刊する事ができました。この作文集には、子どもたちが自分や家族のこと、学校や友だちのこと、差別、平和、社会問題や命の大切さ等について、しっかりと向き合い、考え、自らの言葉で綴った作品が載せられています。

今から約百年前、一九二二年三月三日、部落差別解消を目指して全国水平社が創立されました。

この創立大会で採択されたのが、「水平社宣言」です。「人の世に熱あれ、人間に光あれ」と結ばれた水平社宣言は、人間の尊厳と平等をうたい、部落差別をはじめ、あらゆる差別の解消を目指した日本最初の人権宣言と言われています。

この宣言の中心にあるのは、人間は差別されるものでも、いたわられるものでもなく、尊敬すべきものであるという考え方であり、人類普遍の原理である基本的人権の尊重そのものです。

しかし、この水平社創立百年と時を同じくして、ロシアによるウクライナ侵攻が起きました。戦争は最大の人権侵害です。平和のないところに人権はなく、人権のないところに平和はありません。

今回、子どもたちがそれぞれの視点で綴った作品からは、人間を尊敬するという思いがあふれています。私たち一人ひとりが子どもたちの純粋さに学び、人間の尊厳、人権について改めて考え、大切に守っていかなければなりません。

この作文集をより多くの方々にお読みいただき、差別のない、市民の誰もが笑顔で心豊かに暮らせる新宮市の実現に向け、人権尊重の輪が更に大きく広がることを願っています。

おわりに、この文集発刊に当たり御尽力をいただいた市内小中学校をはじめ関係者の皆様方に対し、心から感謝を申し上げ、ご挨拶いたします。

★小学生の部★

うれしかったこと

熊野川小学校一年

1

言葉について

城南中学校一年

12

兄弟が大きい

三輪崎小学校二年

1

視覚障害

熊野川中学校一年

12

ぼくの妹と弟

神倉小学校二年

1

男女平等とは

光洋中学校一年

13

大すきだったひいじいちゃん

王子ヶ浜小学校二年

2

励ますと心が温くなる

熊野川中学校一年

14

お母さんの気もち

三輪崎小学校三年

2

インターネット上での人権について

緑丘中学校二年

16

しあわせの入れ物

王子ヶ浜小学校三年

3

少年革命家

熊野川中学校二年

16

水害がもしあったら

熊野川小学校三年

4

今の時代で

近畿大学附属新宮中学校二年

17

いのちについて考えたこと

高田小学校四年

4

たった一人の大切さ

光洋中学校二年

18

お父さんがせなかを押した

神倉小学校四年

5

守るべき身近な人権

近畿大学附属新宮中学校二年

19

おばあちゃんの笑顔

三輪崎小学校五年

6

人権を奪う戦争
マイクロアグレッション

緑丘中学校三年

20

わたしたちが出来る事

高田小学校五年

7

言葉の正しい使い方

城南中学校三年

21

一人ひとりの個性

神倉小学校五年

8

友達づくり

高田中学校三年

22

みんなに支えられていること

王子ヶ浜小学校六年

9

意味があるもの

光洋中学校三年

23

人権侵害

熊野川小学校六年

10

性の多様性
いじめを根絶するためには？

緑丘中学校三年

24

25

26

小学生の部

うれしかったこと

熊野川小学校 一年



ママがいつも、りょうりをつくってくれる。うれしい。いつも、ありがとう。

パパはべんきょうを、おしえてくれる。いつもやさしい。おとうといっしょにはいたり、おにごっこをしたりするの
が、たのしい。けんかもするけど、おとうがいてくれてうれし
い。

これからも、よろしくね。

兄弟が大すき

三輪崎小学校 二年



わたしには、兄弟がいます。お兄ちゃんと、お姉ちゃんがいて、わたしは一番下です。お姉ちゃんは、中学二年生です。

お姉ちゃんは、いつも友だちとあそんだり、ならいごとをたくさんしています。わたしは、お姉ちゃんとあまり一しょにあそべません。でも、お姉ちゃんと一しょにばんごはんを食べているとき、お姉ちゃんは、おもしろいことを言って、わたしをわらわせます。

わたしは、そんなお姉ちゃんが大すきです。

お兄ちゃんは、大学四年生で、一人ぐらしをしています。とおいところなので、四か月に一回くらいしか会えません。でも、会った時いつもあそんでくれます。しゅくだいをおしえてくれたり、一しょにねてくれます。でも、一週間くらいしたらとおいところ
に帰ってしまいます。すぐくさみしいけど、「またこんどね。」と
いって、おくりました。またすぐ帰って来てほしいです。
わたしは、お姉ちゃんもお兄ちゃんも大すきです。これからも、
ずっとなかよしでいたいです。

ぼくの妹と弟

神倉小学校 二年



ぼくは、いま三人きょうだいが一番年上です。でも、ほいく園にかよっていた時は、きょうだいがいなかったので、一人ぼっちでした。だから、きょうだいのいる友だちを見ると、心の中で、いいなあ、とうらやましく思っていました。

そんなある日、お母さんの体ちようがわるくなってきました。

お母さんがびょういんへ行くと、おいしゃさんから、

「おなかの中に、赤ちゃんがいますよ。」

と言われたそうです。ぼくは、そのことをお母さんから聞いた時、とてもうれしかったです。

生まれたのは、妹でした。名前は、「まの」と言います。

妹は、いま三さいで、レゴであそぶのがすきです。あまえんぼうで、いつもぼくに、あそぼうとさそってきます。あそんであげ

ないと泣いてしまうので、ぼくは、一人でいたいことがある時も、いっしょにあそんであげています。たまにあそんであげない時は、「おねがい。」

と言ってきます。そんな妹がかわいいです。

今年の九月には、弟が生まれました。名前は、「しゅうか」と言います。

弟は、まだ自分で歩くことができないので、ぼくは、だっこしてあげています。たまに、ミルクをのませることもあります。弟は、ねていることが多いです。ね顔がとてもかわいくて、見ているだけで、やさしい気もちになります。

今は、妹や弟がいるので、毎日楽しいです。これから、お兄さんとして、きょうだいを大せつにしていきたいです。

大すきだったひいじいちゃん

王子ヶ浜小学校 二年



一年前、ひいじいちゃんが、九十七さいで、なくなっていました。わたしは、なみだがポロリ、ポロリとあふれました。ひいばあちゃんも、いとも、なみだがポロリポロリ。「みんな、よっぽどかなしかったんだね。」わたしは、そう思いました。夜も、朝も、昼も、なみだが、とまりません。そんな時、わたしは、いつもこう思います。「ひいじいちゃん、会った時は、いつも元気いっぱいだったのに、なんでなくなっちゃったんだろう。」わたしは、そう思います。なくなる前の日に、きゅうに、ちょうしがわるくなって、なくなったそうです。

ひいじいちゃんが、元気だった時、ひいじいちゃんと、夜ごはんに、おすしをたべに行ったことがありました。その時のひいじいちゃんのおかあさんがフラダンスをおどりました。ひいじいちゃん、とてもたのしそうにわらっていました。わたしは、もう一ど、そのえがおが見たいです。天国でも元気で、わらっていてね、と思います。

お母さんの気もち

三輪崎小学校 三年



お母さんが、

「もう少しでごはんができるから、もうゲームをやめなさい。」と、いつてきました。わたしは、

「これが終わるまでまって。」

と、いうと、お母さんがおこって、

「いいからやめなさい。」

と、いつてきました。

そこでわたしは、

「もうちょっとだけ。」

と、ねばると、

「ごはんがさめるから、はやくして。」

と、さらにおこってきました。

わたしはめんどくさくて、

「明日食べる。」

といって、そのままごはんを食べずにねてしまいました。

次の日の朝、起きてリビングに行くとき、まだお母さんはいませんでした。お母さんの部屋に行くと、お母さんはまだねていました。

「もうちょっとだけねかして。」

と、お母さんがいつてきたので、わたしはれいぞうこの中にある、きのうのごはんを食べました。

「お母さんの作りたてのごはんのほうがいい。」

と、ひとりごとをいつていたら、お母さんがリビングにやってきました。

「お母さん、きのう、明日食べるとかいつてごめんなさい。」

と、いつたら、お母さんは、

「いいよ。」

と、やさしくほほえみかけてくれました。

お母さんは、毎日、家族みんなのためにそうじしてくれるし、整理整とんもしてくれるし、せんたくも全部してくれます。お母さんは、

「それがいいやになったとしても、やめられない。」

と、いつていました。やめたら、家族みんながこまるし、家族を大切に思っているからがんばってくれているようです。

それを聞いたわたしは、「がんばるぞ」という気持ちがありました。

その後、わたしはお母さんに、

「ごめんなさい。」

と、いつたら、お母さんは、

「いいよ。」

と、いつてくれました。その後も、

「成長したね。」

ともいつてくれました。わたしは、なきそうな声で、

「ありがとう。」

と、つたえました。その時、とてもうれしい気持ちになりました。今まで、お母さんが、家事をしてくれるのが当たり前だと思いつていました。でも、いろいろなことを全部してくれているお母さんに、わたしは、いやなことをしてしまい、お母さんをいやな気持ちにさせてしまいました。

わたしは、次からは気をつけたいと思いました。

お母さんには本当に、「ありがとう」をつたえたいです。「ごめんなさい」とつたえたいです。お母さんのおてつだいをたくさんして、お母さんをよろこばせたいです。

いつぱいお母さんに「ありがとうの気持ち」をつたえたいと思いました。

しあわせの入れ物

王子ヶ浜小学校 三年



わたしの心の中には、しあわせをためておく、「しあわせの入れ物」があります。

わたしには、妹とお姉ちゃんがいます。わたしと妹は、よくけんかをしますが、いつも仲直りをします。お母さんは、「仲直りはいいことだよ。」とわたしたちに言います。わたしとお姉ちゃんは、あまりけんかをしません。毎日遊んでくれて、やさしいお姉ちゃんです。わたしは、お姉ちゃんや妹からしあわせをもらっています。

また、お母さんとお父さんにもしあわせをもらっています。生んでくれたこと、やさしいこと、おもしろいところ、すべてわたしにとってのしあわせなことです。お父さんとお母さんは家族のために仕事をがんばってくれています。

すぐくやさしいお母さんとお姉ちゃん、そして、すぐくおもしろいお父さんと妹にかこまれて、わたしは毎日しあわせの入れ物にしあわせをためています。これから、家族にたくさんのおしあわせをもらって、入れ物の中をいっぱいにしたいと思います。また、わたしも、家族にたくさんのおしあわせをあげたいと思います。

水害がもしあったら

熊野川小学校 三年



地いきの方が学校へ来て、水害の話をしてくれました。水害の写真を見せてくれておどろきました。写真には、学校のホールにひなんしている人達がうつっていました。電柱が半分くらいついている写真や、こわれかけている家の写真もありました。水害で家がこわれたら生活が大へんだし、遊ぶところや自分がすきなところがなくなるかもしれないからいやだと思いました。

家で水害の話を聞いたことがあります。水害があった時、わたしはまだうまれていませんでした。水害があった時、中学校の二かいの半分まで水があがってきたと聞きました。

「あの時はすごかった。」

とお母さんが言っていました。その話を聞いた時、大変だったのだらうなと思いました。

地いきの方は、もし次に水害が起こったら、安全なところへいどうすること、日ごろから水害が起こったらどうしたらいいかをしきすることが大切だと話してくれました。もしも大雨になったら安全な所へにげたいと思いました。

くま野川は、遊べる場所がたくさんあります。さつき公園やだん地の公園、グラウンドやせん水橋で遊べます。きれいだししげんがいっぱいあって、イチゴを作っているところもあります。お気に入り場所は家です。家だったら落ち着くし、安心するし、いつも楽しいからです。家の前で妹とお姉ちゃんとバレーをして遊ぶことがあります。外で遊ぶのも楽しいです。学校も楽しいし遊べるから好きです。わたしはこれからもくま野川でたくさん遊びたいです。

わたしは、大雨がふったらどうしたらいいか家族と話したいと思っています。そして、これからくま野川で安全にすみたいと思います。

いのちについて考えたこと

高田小学校 四年



ぼくは、道徳の勉強で日野原重明さんのことを知りました。

日野原さんは、山口県に生まれて、三才の時うつり住んだ神戸の小学校の四年生の時、病気になる、三か月学校を休んだそうです。自分が治った後、お母さんも病気になるそうです。お母さんの病気も、日野原さんがお世話になったお医者さんがみてくれたそうです。その時、日野原さんも、その先生のようなお医者さ

んになりたいと思ったそうです。

二十才で大学の医学部に入學しましたが、二年生の時にまた病氣になり、今度は一年間学校を休まなければならなくなりました。病氣になったことがあるので、病氣をしている人のつらさに心から共感できるようになったと書いていました。

五十八才の時、乗っていた飛行機が事件にまきこまれ、三日間とじこめられたこともあったそうです。このまま死ぬのではないかと考えたそうです。

その後、医者としての仕事に加えていろいろな活動を開始したそうです。九十二才から、日本各地の小学校に行つて『いのちのじゅぎょう』をしたそうです。その時には、君たちは自分のいのちをどうつかうかを考えよう、君たちもっている時間は、君たちが使えるいのちなのだから、と伝えたそうです。

百才をすぎても、いのちの大切さを伝える活動が続けて、二〇一七年、百五才でなくなられたそうです。

ぼくは、日野原さんのことを知つて、小さいときや大学生の時は病氣をしたけれど、百五歳まで生きられて、すごいなあ、幸せだったなあと思いました。

ぼくはもうすぐ十才です。ぼくが生まれたときは、とても元気な声で泣いたそうです。小さいときから、とても元気でした。いたずらをしたりしておこられたりもしました。保育所の時は、同じ年の男の子の友達がいました。おもちゃの取り合いでけんかになったりもしましたが、次の日にはなか直りをしました。今は転校してしまつて、はなればなれになつてしまつたけど、時々電話で話します。楽しいです。

小学校になつて、勉強が始まり、がんばっています。苦手な勉強も、がんばっています。がんばった後は気持ちがいいです。時々、失敗もあるけれど、少しずつ成長していると思います。

高田小学校の児童数は少ないけれど、みんな仲良しです。中学校の人とも勉強したり、遊んだりできるので、とても楽しいです。これからも、一生懸命にがんばっていききたいです。

ぼくは、いのちは心臓が動くことと思つていましたが、日野原さんは、いのちはその人のもっている時間と書いていました。そして、自分のいのちを自分のためだけに使うのではなく、だれかのために使うことの大切さを書いていました。でも、ぼくはまだ日野原さんがいうようにはできません。でも、少しでも人のこともできるようになれたらいいなと思います。

日野原さんのことを知つて、いのちについて考えることができました。自分のいのちをこれからも大切にしていきたいです。そして、自分以外の人のいのちも大切にできる人になりたいです。

お父さんがせなかを押した



神倉小学校 四年

みなさんは、何か自分の長所と短所はありますか。ぼくはスポーツが得意ですが、ぎゃくに勉強はできません。だからお父さんにすぐにおこられます。とくに、お父さんに何回も言われてもできない時によくおこられます。その時は、ぼくもお父さんもすごくいやな気持ちになります。それでもお父さんは、熱心に計算のやり方や、漢字の読み方や書き方も教えてくれます。「教えてくれてありがとう」と思っています。が、なかなかその気持ちは伝えられません。

少し前、お父さんにいつもよりきびしめにおこられたことがあ

り、それで一時期自分に自信が持てませんでした。ですが、二人でドライブに行っている時、お父さんはぼくのいい所をいっぱい教えてくれました。「れんとはスポーツができるし、やさしいし」と言ってくれました。お父さんに言われてうれしかったです。そしてたんにんの先生にも、なやんでいる時に話を聞いてもらいすつきりもしました。

ぼくは今、お父さんのいい所もいっぱい知っています。やさしい所や、どこかに連れていってくれること、それに「おこる」というのも、また一つのやさしさです。怒ってくれることで、ぼくのしょうらいのことを思ってくれているからです。自分のいいところも今は知っています。なぜかという、友達に教えてもらっているからです。人権の授業でも「元氣、たよりになる」と書いてくれました。自分では「たよりになる」とは思ってたけど、うれしかったです。

人よりもいい所がなくても、それをさがせばきっと見つけられ、今自信がない人も勇気が出ると思います。なぜなら、人に背中を押してもらえば、勇気が出るからです。それに「その人の個性は、その人のいい所だから」とお父さんもよく言ってくれました。ぼくは今落ち込んでいる人は、また立ち直して、苦手なことが得意なことになるように、熱心に取り組んでほしいです。

いつかぼくはお父さんに「ありがとう、おこってくれて。ぼくのせなかを押してくれて」と伝えたいです。

おばあちゃんの笑顔

三輪崎小学校 五年



私には、大事なおばあちゃんがあります。私が小さいころから、たくさんのことを教えてくれている人です。おばあちゃんは、いつも私と遊んでくれます。一緒に公園に行ったり、おばあちゃんの家でお手伝いをしたり、大好きな絵をかいいたりするなど、色々なことをしました。

私は、今でもちょっとした手伝いをするくらいしかやれていないけれど、いつも、おばあちゃんは、

「ありがとう。助かったよ。」

と、言ってくれます。本当にやさしくて、とても元氣なおばあちゃんです。

しかし、ある日、学校から帰ってくると、

「おばあちゃんが倒れた。」

と、お母さんに言われました。私は、とても心配になりました。おばあちゃんが、病院で検査を受けると、「がん」だということがわかりました。その時に、おばあちゃんが死んじゃった...と考えると、急に怖くなってきてしまっただけのこともありました。しばらくたって、おばあちゃんは遠くの病院に入院することが決まりました。おばあちゃんがいないと、なんだかとてもさみしい感じがしました。お母さんは病院に荷物を置きに行くので、とても大変そうにしていました。

数日後、おばあちゃんは、手術を受け退院できることになりました。その退院の日に、私はお父さんとお母さんと一緒におばあちゃんを迎えに行きました。私は車の中で、いつもの元氣なおば

あちゃんにもどっているのか心配していましたが、病院からおばあちゃんが出てきた時、

「むかえに来てくれて、ありがとう。」

と、いつもの笑顔で言ってくれました。私は、ずっと心配していた分、とても安心したし、うれしかったです。

私は、これまで、学校の道徳の時間でしか命について深く考えるということがありませんでした。しかし、身近にいたおばあちゃんが倒れ、命の大切さ、一つしかないかけがえのないものだということを改めて感じました。もう、おばあちゃんが大変な病氣にはなってほしくないと思いました。

私は、やさしくて、元気なおばあちゃんが大事な人です。これからも、命、家族を大事にしていきたいです。

わたしたちが出来る事

高田小学校 五年



毎年、私たちの学校は、「ふれあい交流会」に参加します。ここでは、主に、歌を発表します。みんな楽しくやっています。ふれあい交流会は、地いきの人が集まります。私たちの住んでいる高田では、お年よりの人が多いです。なので、よりお年よりの人たちとふれあうことができます。ふれあい交流会では、なぜ、歌をいつも発表するのかというと、お年よりの人に私たちの元気な歌を聞いてもらうためです。ほかに曲によって、地いきの人たちがその歌を口ずさむことができます。そして、お年よりの人、名前を覚えてもらったり、顔を知ってもらえたりします。このよ

うなふれあう機会を持つことで、地いきの人たちとのつながりが深くなると考えています。今年は、中学生をふくめ、六人で参加しました。

ふれあい交流会では、いつも地いきの人たちは、私たちの姿を見ると、とても喜んでくれます。そんな姿を見ると私もうれしくなります。

私のひいおばあちゃんもいつもそうです。ひいおばあちゃんは、なち勝浦町に私のおばあちゃんのお姉さんと一人で住んでいます。今年、九十一才になります。今は、歩くことがつらそうだけど、おしゃべりが好きで、食事もおかずをしっかり食べて、元気です。私たちが来るとなったら、まだかなまだかなと、げん関のいすにすわって私をいつも待っていてくれます。ひいおばあちゃんの家につくと、ひいおばあちゃんは、

「よう、きてくれたよ。」

といいます。すると、私は、来てよかったと思います。食事のときは、私たちがいっしょだと、自分が食べ終わっても、みんなが食べ終わるまでその場で待っていてくれます。

「おいしい？」

と聞きながら、にこにこしてすわっています。こんな、ひいおばあちゃんを見てみると、同じように地いきの人たち、お年よりの人たちは、私たちの姿を見て、元気をもらっているんだな、うれしいんだなと知りました。

今年は、新しくゲームもいっしょにしました。そのゲームで楽しく遊ぶことができました。歌は、校歌を歌いました。歌っているときは、手びょうしをしたり、いっしょに歌ってくれたりしました。中には、「なみだが出てきそうやよ。」と言ってくれた人もいたそうです。私は、なみだが出そうなのもいることにおどろきました。きっと、なつかしい校歌や校舎を思い出したのかもしれない。

ません。

私は、ふれあい交流会に参加することで、地いきの人たちと関係を深めることができるということと、私たちの姿を見せることで、元気づけることが出来ると思いました。

今年も、地いきの人たちと楽しく交流できました。私たちの元気な声をしっかりと届けることもできました。

高田に住んでいるお年よりの人たちともっと仲良くなりたいし、ひいおばあちゃんにもできるだけだけ会いに行って元気を分けてあげたりしたいです。

一人ひとりの個性

神倉小学校 五年



私には、小学二年生の妹がいます。妹は4Pマイナス症候群という病気を持って生まれてきました。この病気は染色体という、人間の体を作るベースとなっているものの異常で起きています。体にたくさんさんの病気があることが多く、言葉を上手く話せなかったり、歩けなかったり、口から上手くご飯を食べられなかったりします。

妹が生まれた時、鼻と口の間の皮ふが切れていました。赤ちゃんの顔を見た時、お母さんはとてもびっくりしたそうです。そして妹は生まれてすぐに初めての手術をしました。

ある日、私が妹の事を見てみると、けいれんが起きました。なかなか治まらなかったで、初めて救急車に乗りました。その後何度も何度も救急車に乗りました。そのたびに心配で、怖くて

しかたがありませんでした。お母さんとお父さんも同じ気持ちでした。

妹は、生まれた時に病院の先生から「長くて三才までしか生きられない。」と言われていました。だから調子が悪くなるたびに、もう会えなくなるんじゃないかとドキドキが止まりませんでした。妹は生きるために、たくさんさんの手術を受けました。そして今、妹は八才です。私はそんな妹がいる事で、たまにさみしくなったり、不安になったりします。

ある日、私が一番尊敬している人に言葉を書いた色紙をもらいました。そこに書いていた言葉は「何があっても大丈夫。天が私を守ってくれる」という言葉でした。私はそれを見て、初めは意味が分かりませんでした。その人が言葉の意味を教えてくださいました。それを聞いて私は、「がんばって見れば見てくれる人が必ずいる」と信じるようになりました。そしてその言葉は、私が今生きている支えになっています。

私は生まれてすぐの妹の写真を見たり、手術などではばらく入院したりする妹のことを、「かわいそうだね。」とお母さんに言ったことがあります。そうしたらお母さんが、「それも一人ひとりの個性なんだよ」と教えてくれました。私はその時「個性」の意味を考えました。私たちがおしゃれをしたり、好みの物を持ち歩いたりする自分らしさが個性なのかなと思います。

妹にも個性があります。妹は今まで手術で痛い思いや家族と離れてさみしい思いをたくさんしてきました。悲しいときもあったと思います。私は怒られたときや悲しいときの切り替えが苦手ですが、妹は私より気持ちの切り替えが早いです。そんな妹を見てすごいなと思います。妹は話したりする事ができないけれど、妹の中でも私と同じように自分らしさや個性を持っているんだと思うようになりました。私が思う妹の一番すてきなところは

笑顔です。妹の笑顔は周りの人を幸せにしてくれます。私はそんな妹が大好きです。

私は妹のことを考えているうちに、「個性」の意味が分かってきました。妹も私も友達もみんな自分にしかない個性を持っています。私はそんな妹の個性も友達や家族の個性も、そして私自身の個性も大切にしていきたいです。

そしてこれからもずっとずっと家族で笑い合える毎日が続いていてほしいです・・・。

みんなに支えられていること

王子ヶ浜小学校 六年



私の家族は、去年、無料でアドベンチャーワールドへ招待していただきました。

この発言で「いいな」「ずるい」などと思う人もいるでしょう。しかし、私の家族には、招待してもらえる理由があるのです。私には一年生の弟がいます。私の弟は自閉症スペクトラムという障害があります。自閉症スペクトラムは、発達の遅れがあり、授業についていけなかったり、こだわりが強く、否定されたらパニックになったりします。弟も家では落ち着きがなく、怒られても怒られているとわからず笑っていたりすることがあります。パニックになって、急にどこかへ行ってしまうこともあります。買い物に行った時には、よくいなくなり、みんなを探しに行くこともありました。たまに「つらいな...」「私の家族は、みんなより大変そうやな...」と、感じてしまいます。

そんな時、アドベンチャーワールドが無料で招待してくれる「ドリームデイ・アット・ザ・ズー」があることを、ホームページで知りました。これは、すべての人が手を取り合い、共に助け合って生きていける社会の実現を目指した、国際的なプログラムです。アドベンチャーワールドでは、障害のある子どもとその家族に、周りに気がねなく楽しいひとときを過ごしてもらうため、毎年十一月三日に開催されています。私たち家族は、この「ドリームデイ・アット・ザ・ズー」に、昨年招待されたということなのです。

私は、アドベンチャーワールドが来場者に行っている工夫で、すごいと思ったことが三つあります。

一つ目は、キャストの人たちの対応です。障害のある子の中には、気持ちの切り替えが難しく、泣き続けたり、暴れたりする子があります。アドベンチャーワールドを訪れた日も、切り替えができず寝転んで叫んで泣いたり、急に違う方向へ走ったり、手をひらひらさせながらジャンプやスキップをしたりしている子がいました。感覚過敏でマスクができない子もいました。その時キャストさんは、その子が落ち着くまで、「いいよ」「大丈夫ですよ」と、優しく声をかけ続けていました。それを見て、私は、アドベンチャーワールドの方々の心優しい対応に感動しました。

二つ目は、思いやりです。アドベンチャーワールドでは、車椅子の人も車椅子でない人も写真が撮りやすいように、飼育員さんが、おとなしい動物の首に縄をして、柵の外に出してくれていました。私達もこれのおかげで、安心して写真がとれました。これは、アドベンチャーワールドの思いやりの心だと思っています。

三つ目は、無料の理由です。この「ドリームデイ・アット・ザ・ズー」には、様々な団体がお金を寄付してくれています。さらに、この企画に賛同した人たちから、クラウドファンディングで、お

金がたくさん集まっています。そのおかげで、私達は無料で招待してもらえているのです。

これまで私は「私の家族は、みんなより大変そうやな…」と思うことがありましたが、アドベンチャーワールドのおかげで、私達のような障害のある子とその家族が、たくさんの人に支えられているということがわかりました。

私は将来、作業療法士になりたいと思っています。作業療法士になって、障害のある子に、自分のペースに合った学習方法を教えたり、社会生活をする上での気持ちの切り替えの仕方を教えたいです。そしてアドベンチャーワールドのキャストさんのように、思いやりを大切にして、障害のある子とその家族を支えたいです。

人権侵害

熊野川小学校 六年



皆さんは、世の中で、どんな人権問題が起こっているか知っていますか。

ニュースを見ると、人権侵害についての出来事をよく聞きます。ぼくは人権侵害をされたことはありませんが、人権侵害について気になったので、調べてみました。すると、人権侵害とはとても嫌なことだということがわかりました。

人権とは、「人が人として、その社会のきはんの中で自由に考え、自由に行動できる権利」「すべての人がかけがえのない人間として暮らせる権利」など、様々な言い方があると思います。

すべての人が、生まれながらにもっている権利です。この重要な権利を侵害されているということを聞いて、とても残酷と思いませんか。

人権侵害には、次のようなものがあります。「みんなから仲間はずれにされている」「いじめやリンチなどを受けている」「体罰を受けている」「出身や社会的身分などで差別を受けている」「変なうわさをたてられて困っている」「障害を理由に差別や不当な扱いをされている」「配偶者からの虐待の強制を受けている」など、とてもたくさんの人権侵害があります。

また、今とても使われている便利なラインやSNSは、何気ない文章が人を深く傷つけてしまうことがあります。SNSなどで誰かの悪口を書いていると、それがやがて、いじめに繋がります。「人が人として、その社会のきはんの中で自由に考え、自由に行動できる権利」が侵害されるのです。

さて、このような人権侵害をなくすために、例えばどんな事ができるか考えてみましょう。

まずは、一人一人が、どのような人権問題があり、どのように解決していけばいいのか、日頃から意識を向けることが大切です。人権問題について何も知識がないのに、行動に移すことはできません。

では、どのようなところに意識を向ければよいのでしょうか。具体的に言うと、学校、家庭など身近な環境における人権侵害に意識を向ける。人権侵害に関する知識を広めるなどがあります。

このことを知った上で、行動に移すことを考えてみましょう。子どもで一番多い人権問題は、「いじめ」です。「いじめ」をしない、させない、見逃さない。これだけで、いじめという人権侵害を防ぐことができます。人権侵害されているのを見たり聞いたりしたら、すぐに親や先生などの大人に知らせましょう。もし自分

がいじめられたら、すぐに周りの友達や大人に相談しましょう。

この人権作文という取り組みは、書いて、理解を深めて、人権について知るためにあります。僕は、人権侵害をしないために、「こんなことをしても良いのか」、「もし自分がされたらどう思うか」、ということをしっかり考えて行動したいです。そうすることで、人権侵害がなくなっていくのかなと思いました。皆さんは他にどんな事ができると思いますか。

この作文では、人権侵害はどのようなものか、どうすればいいかを紹介しました。人権侵害がない社会にするために、みなさんも、紹介したような色々な努力をしてみませんか。

中学生の部

言葉について

城南中学校 一年



言葉は「善」にも「悪」にもなります。

善の言葉は、人を良い気持ちにすることができます。僕は善の言葉を言われると、とても嬉しい気持ちになります。だけど、悪の言葉を言われた人は、悲しく、つらい気持ちになると思います。その言葉を聞いている人たちも、嫌な気持ちになってしまったり、雰囲気が悪くなってしまうです。

僕は悪の言葉を言われ、とても悲しくて、つらい気持ちになったことがあります。それは、小学生のときに、仲の良い友達から、僕が一番気にしている言葉を言われた時でした。友達が言われていたのを見たこともあります。その時、僕は何も言えず、ただ見ているだけでした。その後、僕はどうすれば良かったのか、家に帰って考えました。何も言えなかった僕も、言っている友達と一緒にいるかと思いました。

お母さんとケンカをしている時は、自分も腹が立って嫌な言葉をたくさん言ってしまうことがあります。だけど、嫌な言葉を言ってしまった後は、自分もあまり良い気持ちにはなりません。お母さんもきっとあまり良い気持ちではないと思います。「ごめんなさい」の一言で仲直りすることはできませんが、言ってしまった言葉は消えませんが。家族は許してくれるかもしれませんが、友達に言ってしまうと、友達が離れてしまう可能性もあります。だから、それから僕はできるだけ嫌な言葉は言わないように気を付けてい

ます。もし周りに、そのような言葉を言っている友達がいれば、注意できるような人になりたいです。もし、言われている友達がいたら、「大丈夫？」と声をかけてあげたいです。もし自分がそのような嫌な言葉を言ってしまった時は、すぐに「ごめんなさい」と言える人になりたいです。

善の言葉は、みんなを良い気持ちにさせることができると思うので、僕はできるだけ優しい温かい言葉を使えるような人になりたいです。僕には弟がいるので、弟が嫌な思いをしないように僕が守ってあげたいです。

視覚障害

熊野川中学校 一年



私は、今まで障害のことを考えたことがありませんでした。でも、前に視覚障害の人のテレビを見て障害のことに興味を持ちました。私は、視覚障害について調べました。視覚障害とは、視力や視野に障害があり、日常生活を送る上で困難を感じている状態のことです。私は、目が見えないとどんなことが大変なのか、どんな事があると助かるのか考えてみました。

一つ目は、点字ブロックが塞がれていたときのことです。点字ブロックの上に人が立っていたりものがおいたりすると、人につぶかってしまったり、ものにつまずいてこけてしまうかもしれません。私は、以前は点字ブロックはそんなに必要なものなのかなと思ったことがあります。私以外にもそう思ったことがある人、今もそう思っている人がいるかも知れません。だけど、私は

視覚障害の人のテレビを見て、点字ブロックは行く方向やその場所にあることを教えてくれる役割をしていることを知りました。

二つ目は、横断歩道を渡るときのことです。今は信号が青になると音がる信号が多いけど、音のならない横断歩道を渡るときは周りの人に声をかけてもらったり、周りの人の足音が聞こえると横断歩道を渡ったりするそうです。ほとんどの人は、信号が青になったらあるき出し、信号が黄色になり点滅すると次に信号が青になるのを待ちます。でも、全員がルールを守っているわけではありません。車が来ていないから信号が青になるのを待たず、赤でも横断歩道を渡ったり、信号が点滅していても走って横断歩道を渡る人もいます。そんな人が視覚障害の人の隣で、信号が青になるのを待たずに横断歩道を渡る人がいると、視覚障害の人は横断歩道を渡った人につられて横断歩道を渡ってしまうかもしれません。その事によって、怪我をしたり命を落としてしまうかもしれません。

三つ目は、白杖のことです。白杖を持っている人は、全盲の人が多く思っていました。でも違いました。視覚障害の人で全盲の人は約二割で、弱視者の人の方が圧倒的に多いのだと知りました。白杖の役割は、おもに三つあるそうです。一つ目は、周囲の情報を入手することです。白杖の石突を路面に滑らせるスライドテクニックという方法を使って、一度に広範囲の路面状況を把握することや、静かな場所でも利用することができます。二つ目は、身の安全を確保することです。進行方向の左右を白杖で叩きながら歩行するタッチテクニックという方法を使って、反響音を聞くことで、ものがあるかないかを区別でき、周囲に視覚障害の人がいることを知らせることができます。三つ目は、視覚障害者であることを周囲に知らせることです。白杖を路面から浮かせた状態

で持ち、自分の目の前にかざしながら歩く鉛筆持ちという方法を使って、視覚障害者が周囲にいることを知らせることができます。でも、二つ目のタッチテクニックという方法をつかうと、目が見えている人は、怒っているのかなと思ってしまふことがあります。三つ目の鉛筆持ちという方法を使うと、目が見えている人は、鉛筆持ちという方法を知らなくて本当は目が見えているのではと思ってしまうことがあります。

四つ目は、仕事についてです。目の見えている人は、ほとんどの人が毎日色んな仕事をしています。でも、視覚障害の人は、視覚障害者という理由だけで働くことが困難になります。実際に視覚障害者が働くことは大変だと思います。目が見えている人より、やるが遅くなったり、ミスをたくさんしてしまうかもしれません。だけど、目の見えている人が視覚障害の人をサポートしたり、困っていることがあれば手伝ってあげたりすると、色んな人が平等に働けると思います。

このようなことから、視覚障害の人は日常生活の中で苦労することがたくさんあることがわかります。視覚障害の人に対しての差別をなくすには、目の見えている人が視覚障害の人のことを知ると、差別や偏見が少なくなると思います。だから私は、いろんな人に視覚障害について知って欲しいと思いました。

男女平等とは

光洋中学校 一年



「男性は仕事、女性は家事。」だれもが少しはそういうふうな

イメージをしたことがあるだろう。僕はこのような「男女平等」について考えていこうと思う。

さて、まずは「男女平等」とはどんなことなのか考えてみる。僕は、男性も女性も同じ権利をもち、暮らせることだと思う。ただ、元々あるはずの女性の権利が、古くからの習わし、「昔からこうだから」「みんなそう思っている」など世間体などによって今も侵害されている。

例えば、冒頭で話した「男性は仕事、女性は家事」などという勝手なイメージである。これも立派な女性差別である。僕も「女子はスカートはいているのがいいよねー」という言葉を男子の友人が話すのを耳にしたことがある。僕はその言葉を耳にしたとき、「そうかもな」という程度にとらえ、特になんとも思わなかった。しかし、今思い返してみるとそれはおかしいことだと思う。それは「ふつう」ではなく、あくまで僕達の脳にしみついていてだけのイメージにすぎない、そう思う。おかしいじゃないか、女性でも「ズボンが好きだ」という人、「赤やピンクとか、明るい色じゃなくて黒とか暗い色が好きやで」という友達もいるのだ。なのに、僕達の勝手なイメージがあるせいで、「女子はスカート」などがこの社会の中で「普通」だと認識されているのだ。

僕も実際、イメージを口にしてしまったことがある。ある日、妹が

「川、行ってくる。」

と言ってきた。すると僕は

「女の子なんやから、気を付けなよ。」

と言った。すると

「女の子やからって何なん。」

と妹におこられてしまった。そのときの僕は、「え、そうじゃないん」と思ってしまった。自分で言うことではないのだが、

こういう差別は、してしまった人は気付かないのだ。そう、それが「普通」だと思っているからだ。差別をなくすためにはまず「普通」という考えを改める必要があると思う。なぜ、男女平等ではないのか、それは差別があるからなのだと気が付いた。

そこで、差別をなくすための対策を調べてみることにした。まず、制服についてだ。一昔前まではスカートが主流であった。だが、最近はスラックスという、ズボンのような制服も導入されてきている。このことについてどう思うか、女子の友達に聞いてみたところ、

「ズボンが好きな人、男性みたいにしたいという人の思いが尊重されていて、とてもいいと思う。」

と話していた。他にも、「女子差別撤廃条約」という、「男女の完全な平等を目的とし、女子に対するあらゆる差別をなくしていく。」というものがあるようだ。これらのものはとても良いことだと僕も思う。

女性に対するものだけでなく、差別をなくしていけば、よりよい社会をつくれるだろう。そのためには、イメージを変えていくことが大切なのかもしれない。まずは、これから僕は女性差別や男女平等について考えていこうと思う。

励ますと心が温かくなる

熊野川中学校 一年



皆さんは困ったときや辛いことがあったときに、励まされたことはありますか？辛いときや困ったときに、励まされると「心が

「ホット」します。日本で、困っている人はたくさんいます。その多くは人権に関わる問題です。私が一番辛い問題だと感じたのは子どものいじめに関する人権問題です。法務省によると、最近の子どもの「いじめ」の実態は、巧妙で、「いじめ」の方法や手段も次第にエスカレートしていく傾向にあるなど、執拗・陰湿なケースが増えているそうです。「いじめ」は、それが原因で自殺や殺傷事件などに至る場合があります、重大な人権侵害であるという認識が必要だと書いていました。「いじめ」をする子どもや「いじめ」を見て見ぬふりをする子どもが生じる原因や背景には、複雑に絡み合った問題がありますが、その根底には、他人に対する思いやりや、いたわりといった人権尊重意識の希薄さがあると書いていました。私は最初この「思いやりや、いたわりといった人権尊重意識の希薄さ」という言葉が難しく、どういう意味なのかよくわかりませんでした。でも分らない言葉を先生に教えてもらった意味がわかっていじめの人権問題に関わることがわかりました。この問題を解決するためには、お互いの異なる点を個性として尊重するなどの人権意識を養っていくことが重要です。では今いじめを受けて傷ついている子どもたちにはどうしたらいいのでしょうか。そういうときこそ私は「励ます」ことが大事なんだと思います。人の心をあたたくくすることでもあるし、勇気づけることでもあるので、私は大事だと思います。

私が実際に困って励まされたときの話をします。学校のことでは悩んでいた、失敗してよくよしていたときに、おばあちゃんやお母さんに、色々話をして自分の辛さを聞いてもらって、「大丈夫」「失敗しても大丈夫」と色々な言葉で心が安心して温かくなること言ってもらって、励ましてもらったことが何度もありました。私は励まされてすごく嬉しかったし、安心して勇気をもらったような気がしました。この体験から「励ます」というのは、

「勇気づける」、「元気づける」、「力づける」、「激励する」、「気持ちを奮い立たせる」、「嬉しい言葉」といろんな意味の言葉でもあることを実感しました。

私はネットで人気ユーチューバーを調べていたらグループメンバーの一人が「うつ病になったのでしばらく活動を休止させていただきます。」と言う報告動画があり、それを見た視聴者さんがコメントで「無理しないでください。」や「元気な姿をずっと待っています。」他には「また元気に動画出てくるのを待ってるよ。」と色々励ましの言葉がたくさんありました。私はコメントをした人の気持ちは「心配」や「元気な姿に戻ってきて欲しい」という気持ちなんだと私は思います。動画を投稿した人はコメントを見て、「心配してくれているんだな。」「元気な姿で出て来てほしいんだな。」という視聴者の人の気持ちが分かり、復帰してから頑張っている作品をみんなに届けたいという良い影響を受けると思えます。こういったつながりは、動画を投稿した人も、コメントを書いた人も、すごく嬉しいし、励まされると思います。

私も困っている人や傷ついている人や悩みがある人がいたら、話や色々なことをしてあげて勇気づけて励ましてあげようと思いました。そうしていくと先程のユーチューバーの人のような良いつながりが生まれて、今度は他の誰かが、私が困ったときや辛いときに励ましてくれるかもしれません。お互いが励まし合ったり、支え会えるような関係になれば、きっといじめだけでなく、様々な人権問題もおこらないはずですよ。最初にもいいましたが、辛いときや困ったときに、励まされると「心がホット」します。それと同じくらい、困っている人を助けると心が「ホット」すると思います。こうした行動をしていけば嬉しいし、子どもだけじゃなく大人にとっても大切な考えだと思います。つながり合っただけ人権問題がなくなる未来を作りましょう。

インターネット上での人権について



緑丘中学校 二年

人権とは誰もが人間らしく生きる権利のことを言うと言った。そして、今の世の中には人権が守られていないことによる問題がつかないということも分かった。戦争や差別などもそうだが、私はインターネットでの人権問題というものが気になった。これはインターネットがどういうものなのか一人一人が理解していないから起こるのではないかと思ったからだ。

情報機器を使っていると、何かに対する個人的な意見を書いたものが多くみられると思う。さらにその意見に対して何か書いているものもある。その中には、立派な意見もあれば、誰かが不快になりそうだと感じるものもある。誰が見ても不快になりそうだと感じるものもある。でも誰がそれを書いたのかは簡単にはわからないので、不快だけがたまっていくことになることがある。

どうしてこんなことを書く人がいるのかは私の考えでは、心が荒れている人が多くいるのではないかと思う。何も考えずに好き勝手に書いて後は放っておくという人も少なくないと思う。直接本人に言えない悪口を書く人もいれば、嘘を書く人もいると思う。

けれども、インターネットは世界中の人が使う。だから、軽い気持ちで書いたことが、誰かを傷つけたり、怒らせたりしてしまうこともある。なので、一番重要なのは、インターネットを軽く見ないということだと思う。

インターネットでの嘘は、普段言い合う冗談とは訳が違う。世界中の人に嘘をつくことになることを分かった上で書けるのかということを考える必要があると思う。他のも、これを書いたら誰

かを傷つけないかや、逆に自分が傷つくことにならないかなどを考えたり、本当の名前を名乗ってでもそのことを言えるかどうか考える必要があると思う。

インターネットは軽い気持ちで使うと、自分や他人の人権を守れなくなってしまうと思う。なので使うときはそのことをいつも意識すると良いと思う。もし全員がそれをできれば、インターネット上で人権が守られないということが少なくなると思う。自分がインターネットを使うときは、このことを頭に入れておこうと思う。知らないうちに人権を守れなくなる前に、インターネットの正しい使い方について知ろうとすることが大切だ。一人一人が問題について学んで、改善するようルールを守るようになれば、問題は減っていく、なくなることもあり得ると思う。なので、自分だけはまずこのことを忘れないようにしたい。

少年革命家



熊野川中学校 二年

皆さんに個性はありますよね。僕には、人前で大きな声で発表したり、誰よりも大きな声で歌ったり、さらには、人を笑わせたりすることが出来ます。もちろん僕の家族も友人も色々な人々が色々な個性を持っていて考え方などが違います。

ところで皆さんは「お前ら似てるよな。」というセリフを聞いたことはありませんか。僕も前まで使っていました。ですが、その二人は本当に似ているのでしょうか。もしかしたら趣味、趣向、食べ物好み等が似ていればもう何も言えませんが、もしかした

ら、いや、もしかしくてもそんなことはあり得ないと思います。ゆえに「似ている」という表現は少し違うように感じます。例えばA君とB君がいたとして、その子達はチョコレートケーキが好きです。ただ好きとはいってもB君はチョコレートケーキのクリームが好きです。一方A君はチョコレートケーキのスポンジ部分が好きです。これも少しの違いとして、捉えることができます。それを単にチョコレートケーキが好きで終わらせるのは良くないと思います。ゲームを例に挙げるとA君とB君はMinecraftが好きです。ただA君は家を建てていくのが好きな人で、B君は色々な敵と戦うことが好きな人です。これは結構な違いです。このように微妙な違いがあります。つまり、あるアーティストの歌詞に「世界にひとつだけの花、一人一人違う種を持つ。」とあるように人は、大体似ていても、全部が全部似ている訳ではないので、その少しの違いも個性として尊重していくことが大切だと思います。

さて、皆さんは個性は大事だと思いますか。もちろん、大事だと答えるでしょう。学校でも「個性を大事に学校生活を楽しんでほしい。」とおっしゃっている校長先生も多いでしょう。しかし現状はどうでしょうか。僕なりに今の世の中を考えてみると、目立てばたたかれ、出る杭は打たれて、皆がしていることが正しい、というようになってしまっていると思います。僕自身は少数派、つまり、出る杭の方だと思っています。とあるアーティストさんが「言いたいことも言えないこんな世の中じゃ。」と歌っているように、「こんな世の中じゃダメだ。」と思いました。また、ある少年革命家の少年が「みんなロボットに見えた。人生は冒険や。」と言っていて、僕より年下の男の子でさえ、このようなことを言ってしまうのも間違っていないかもしれません。否、それを正しいと思ってしまうほどまづい世の中になってしまっているのかもしれない。

れません。だから、僕が思うことは、自分から個性をみんなに知ってもらい、その個性をみんな尊重し合うということが、今の日本には必要ではないでしょうか。もちろん人には悪いところもあります。そのようなところは優しく教えたり、時には注意したりして、直していけばいいと思いました。この世界に完璧な人はいません。そもそも完璧な人というのは人によって様々です。すぐく勉強できる、すぐく運動ができる、優しい、お金持ち、と挙げるとキリがないと思います。なのでみんな悪いところを直していき、自分たちが思う「完璧な人間」になれるようにすればいいと僕は思います。

僕の個性は最初に書きましたが、声が大きくて、人前でも平気で喋れるというコミュ力を持っています。でも少し悪いところもあります。いや、悪い所があります。いや、悪い所の方が多いです。空気を読まずに、大声でしつこく歌を熱唱したりと今は悪いところの方が多いです。だから、その悪いところを直すということが必要です。ただ、そうなかなかうまくいかなくて「あーもうなんでやねん。」とってしまうことが多いです。しかし、僕はまだ中学生であり成長途中です。だから、大人になった時に「成長したな。」と思えるように、個性について意識していきたいです。

今の時代で



近畿大学附属新宮中学校 二年

みなさんは、新型コロナウイルスの人権問題があることをご存

知でしょうか。新型コロナウイルスが流行し始めてから一年ほどはよくテレビでも取り上げられていました。学校で配布されるプリントにも、「偏見、嫌がらせはやめましょう。」というようなことが書かれています。その「偏見、嫌がらせ」というものがどういうものか気になったので、調べてみました。

私は、法務省のホームページを見ました。差別や偏見にもいろいろな種類があるらしく、ホームページには四種類書かれてありました。その四つは、「医療従事者やエッセンシャルワーカー（社会で必要不可欠な労働者）」とその家族へのもの」「感染者とその家族への者」「思い込み、過剰な反応によるもの」「新型コロナウイルスの接種を受けていない人へのもの」です。そして、その四つの差別の多くは、日常の中で無自覚になされる言動で、原因はコロナウイルスに対する恐れや不安なんだそうです。

これを見てまず、差別は無自覚に行われることが多いということに驚きました。なぜなら、私は今まで、差別と言うものはする人に悪意があるものだと思っていたからです。そしてそれ以上に、差別をする人は「感染から自分や家族を守りたい」という気持ちを持っていることにも驚きました。私は、差別をするのは悪意がある人で、他の人のことをあまり考えていない人が多いと勝手に思っていました。でも、それは逆だったし、この考えこそが差別につながってしまうんだと学びました。そして私の体験ですが、私の周りでもコロナウイルスに感染してしまった人がいます。その人も一週間ほど学校を休むことになって、友達から連絡がきたとき、「コロナ」という文字を送りたくなかったそうです。なにか言われてしまうんじゃないかと、差別のことが頭の中にあっただんだと思います。だから思いやりを持つとうと思いました。

そして、前の二つ目に書いた、「感染者とその家族への差別や偏見」につながりそうなのが学校でもあって、それは好奇心な

どで誰かが感染してしまったときに、「誰がかかったんだろう」とか、「○○さんがかかったらいいで。」とか、言っていることです。私がもしかかったら、あまり知られたくないし勝手に感染したと他人から言っただけは嫌いです。それに、それを言われたことでトラブルになるかもしれないからです。そして言っているのも見ると嫌になるので、気を付けたいです。

私は、今までの体験から、自分の言動には本当に気を付けなければいけないと思いました。無自覚に行われた差別でも実際には傷ついてしまった人がいることは事実だし、自分が言われると傷つくと思います。だから傷つけないように注意するのと、今は感染してしまう人が多いからこそ、コロナウイルスへの理解をすることが大切だと思います。そして働いてくれてるお医者さんや看護師さん、エッセンシャルワーカーの方に感謝したいです。

たった一人の大切さ

光洋中学校 二年



私は、大切な人を亡くして、三年が経ちます。この三年間すごく色んな思いをしてきました。すごく辛かったり、さみしかったり、ほんとに人の大切さをこの三年間、色々な場面で学びました。大切な人はいつも優しく、笑かしてくれて、相談もしっかり聞いてくれて、何かあるとすぐその人に話したりしていました。そして、その人の誕生日だったり、めでたい日があるとかならずその日に会いに行ってお祝いしたりするほど、大切な人でした。

大切な人がこの世を去っていったのは、三年前の夏休みの終盤

でした。私が夏休みの宿題をしていると、一本の電話が母の携帯にかかってきました。それはその人の両親からでした。

「もしもし。どうしたん。」

母がその一言を放ったその時、母は急にびっくりした顔をして、手で口をおさえました。私はまだ何とも思っていないませんでした。

「すぐ行くね。」

と言って電話を切り、そこで母から、

「落ち着いて聞いて。」

と言われその次の言葉で大切な人が亡くなったと告げられました。私はその言葉を聞いた瞬間、今までの大切な人との思い出がものすごい勢いで頭の中に広がりました。そして、信じられず、涙がすくすく出ました。ずっと止まりませんでした。大切な人にすぐ会いに行くと、顔色は悪く、体はものすごく冷たかったです。その感覚は今でも忘れられません。そしてその次の日、お通夜がありました。来ていたみんなが泣いていました。それだけ大切な人は、良い人達に恵まれていたんだなと感じました。その夜、私は大切な人が反応しないのは分かっていたけど、期待をしながら、話しかけました。

「何してるん。まだまだ早いよ。まだまだたくさんお話たまるのに、なんでおいてくんよ。一人で勝手な事しちゃだめやろ。」そしたら、それをしっかりと聞けたのか、大切な人がお棺の中で、まるで生きているかのように両目から涙を二滴流しました。私は本当にびっくりしました。そこから、今までの感謝を後悔しないぐらい伝えました。ずっと一人でしゃべりかけていました。すると、気づけば表情が変わっており、大切な人が次は笑っていました。もうその瞬間うれしすぎて、号泣してしまいました。不思議ですよ。亡くなってしまっているのに、ちゃんと人が言った言葉が聞こえて、ちゃんと表情で答えてくれて。私はすごく感動し

ました。この出来事は本当に一生忘れないだろうと思います。

大切な人は、今でも私に色んなことを教えてくれて、たまに夢で会いに来てくれるし、本当に良い人です。あの人がボケるネタはいつもすべらず、常にみんな笑っていました。ですが、その吉本新喜劇のようなすくすく面白いネタをしてくれる人がいなくなり、みんな集まっていたイツメンも、集まらなくなりました。やはり、大切な人が抜けたからでしょう。それだけ本当にみんなに大切にされ、恵まれた人なんだといつも感じます。そして、その大切な人は私の心の中に常について、見守ってくれているような気がしています。会うには、まだ何十年もかかっちゃうけど、大切な人の事は一生忘れないし、今も大切な仲間です。

守るべき身近な人権

近畿大学附属新宮中学校 二年



最近、テレビや新聞などを見ると、インターネットでの誹謗中傷の話題をよく耳にします。私はそれを見るといつも悲しい気持ちになってしまいます。それはなぜかと言うと、正しく使えば本当に便利なインターネットを誹謗中傷という本当にひどい行いに使ってしまったからです。インターネットでの匿名性を利用して、人権侵害をしたり、個人の名誉を傷つけたり、差別をしたり、とても許せない行為だと私は思います。

そのような行為を見て、自分が同じような間違いをしないためにも、私はまずインターネットについての現状等を調べてみることにしました。

総務省のホームページによると、二〇二〇年のインターネット利用数の割合は、十三歳から五十九歳の各年齢層で九割を上回っているそうです。また、二〇二〇年のすべての府県でスマートフォンでのインターネット利用率が、五十パーセントを超えているそうです。このことから、誰でも手軽に情報を発信し、意見を言えることが出来る世の中になってきているということが言えます。

また、小中学生がインターネットでの誹謗中傷の書き込みなどで、加害者や被害者になり、トラブルに巻き込まれるという事実も発生しているそうです。総務省が行った意識調査によると、SNS利用者にトラブル経験の有無を尋ねたところ、どの年代でも経験があると答えており、さらに二十代以下においては二十六パーセントとどの年代よりも高い割合となっていました。また、トラブルの内容は、「自分が軽い冗談のつもりだった」や「自分の発言が意図とは全く違う意味でとられてしまった」等から言い合いになることもあるようです。つまり、誰もが、軽い気持ちで発した言葉で相手の気持ちを傷つけてしまったり、誹謗中傷や人権侵害のきっかけを作ってしまったりするかもしれないということです。このような問題に対応するために、法務省の人権擁護機関では、インターネットを利用した悪質な人権侵害に対して、「プロバイダーなどにその情報を削除するように求める」、「インターネット関係事業者にフィルタリングを義務化する」などの対策を行っているそうです。

そういった擁護機関の取り組みだけでなく、もちろん私たちにも普段からできることはあると思います。まずは、誹謗中傷や人権侵害とはどういうことか、プライバシー保護とはどういうことか、とやることをきちんと理解することが大事と考えます。そのような知識を身につけることにより、インターネットの正しい使い方につながるからです。しかし、正しい知識を身につけても、

発信した意見が、意識調査にもあったように、たとえ意図的であっても、誹謗中傷になってしまう可能性もあります。それを防ぐためには、やはり、「思いやり」と「想像力」が大事になってくると思います。相手に言葉を発信する前に、相手がそれをどう受け取るか、どう感じるか、それを一度考えてみる必要があります。このことは、SNS上だけでなく、日常生活全般においてコミュニケーションをとる際には、とても大事なコンテンツです。

今回、私が人権問題について考えてみて、人権問題というのは意外と身近なところがあり、私たち一人一人が考え、意識を変えていかなければならない問題だなと感じました。私たちが誹謗中傷や人権侵害の被害者や加害者にならないためにも、インターネットの正しい知識と使い方を身につけ、相手のことを思いやり、相手の気持ちを想像する力を養っていききたいと思います。そして、これからはインターネットを便利にかつ、楽しく使い続けられるようにしていきたいと思っています。

人権を奪う戦争



近畿大学附属新宮中学校 二年

日々、新聞やニュースでロシアとウクライナの戦争について報道されている。私は、それらの情報を見聞きし、戦争は恐ろしく、人間の感情がない行為だと思う。戦争が起こったことで、多くの人々が大切な人を失い、食べ物に飢え、恐怖におびえる生活をしている。彼らの心境を考えると心がやむ。戦争や紛争によって苦しむ人が増えているのではと思う。つまり、良いことが一つもな

い戦争が起きている。世界が平和に向かうためにどうすれば良いのだろう。

戦争が起こる原因として国の指導者が問題だと思う。指導者は、自国の権利を考えて戦争に走ってしまうのだからと思う。自国民の評価、自身の思惑が交錯して、力で解決しようとするのではないだろうか。そして彼らは感情がないのか、人々を苦しめる戦争に手を出し、取り返しのない方に向かってしまふためだと考える。

現在、世界の核保有を認められている国は五カ国だ。米国、英国、フランス、中国、そしてロシアだ。その五カ国以外の国でも、核を開発し、保有しようとする国が存在する。核開発に多額の出費をして、国の経済をおろそかにしてしまっていると思う。各国に、貧しさに困っている人々が多数いるのに、それらの人々に支援せず、争いで使う核兵器を所有することに不思議な気分になる。現在、ロシアは五九七七発、米国は五四二八発の核を所有していることを新聞で知った。数を争っているのではないかと思う。もし、これらの核兵器を使えば、世界は消えてしまふのだろう。自国は強いということを周りの国々へ伝えるメッセージとして核兵器は利用されているのだと思う。国内に貧困を抱える人が大勢いても、核を保有し続ける権力者たちに疑問を持つ。核ではなく、人々が安心して豊かに生活できる支援をすることが大切だという思考になってほしい。

日本は今年、戦後七十七年の年を迎えた。日本は広島県と長崎県に原子爆弾を受け、大勢の犠牲者を出した。その記憶を忘れず、二度と同じ過ちを繰り返してはいけないと思う。今年の夏は、特に終戦の日の八月十五日に平和を強く願った。昔のことだと思っていた戦争がロシアとウクライナのことによって、以前よりも現実のこととして受け止めたからだと思う。世界では、ロシアとウ

クライナ以外にも現在紛争が起こっている国がいくつもある。アフガニスタンやシリア、ミャンマーの他、インターネットで調べると、日頃新聞で取り上げられない多くの国で武力紛争が行われていることを知った。

人々の日常を破壊し、命を奪う戦争は、紛れもなく人権侵害だ。一人一人守られるべき人権が、戦争においては全く守られる状況にない。

今、私にできることは、正しい状況を知り、どうすれば良いのかを考える努力をすることや人道支援につながる寄付を行うことなどだ。世界の人々の人権が尊重され、平和が実現することを心から願う。

マイクロアグレッション



緑丘中学校 三年

僕は、人権に関わる調べものの中で、「マイクロアグレッション」という言葉を見つけました。そこには「意図的か否かにかかわらず、何気ない日常の中で行われる言動に現れる偏見や差別に基づく見下しや侮辱、否定的な態度のこと」と書かれていました。「マイクロ」という言葉からちょっとしたことかと思いましたが、これは言われた側の「ダメージの小ささ」ではなく、「見えなさ、気付きづらさ」を強調する意味があるそうです。

具体的には、「ハーフだからかわいくていいね。」「女性なのに成功していてすごいね。」「男性なのに家事や育児を手伝っていてえらいね。」などがありました。ほめ言葉を発しているつもりが、

複雑で多様であるはずの人間を枠にはめているということに気づきました。

僕はこれを調べていくうちに、以前言ってしまったことを思い出しました。母が、「今日の晩ご飯は簡単なのでいいかな。」と言った時、僕は「手抜きじゃないの。」と言ってしまい、母に「そんな言い方ないでしょ。」と言われました。そのときは、余計なことを言ったな、くらいに思っていました。が、今、この言葉を知って、母に自分の当たり前を押し付けて、過剰な期待をしていたことに気付きました。そして、言われて嫌だなと思ったことも思い出しました。

小学校の時に、「めがね」と何度も繰り返しからかわれたことがあります。事実だし、悪口でもないのに、とても嫌だったことがありました。が、おそらく、僕はその言葉に、見下しや侮辱を感じ取っていたのだと思います。そのからかいをやめてほしいと言った時に、「悪気が無いのだから」「冗談だよ」「気にし過ぎだよ」など、からかいを受けた方に理解力が無く、心が弱いかのようになつた。さらに不快になりました。

新聞で、世界の高校生が、学力を競う国際科学オリンピックの、この十年の日本代表三百二人のうち、女子は十六人で五・三％という記事を見つけました。自分の周りの同級生の事を考えると、これは、あまりにも男女差が大きくて驚きました。人を大ざっぱに分類して決めつけたり、見下したりすることは横暴な事というだけでなく、相手の自尊心を深く傷つけ、可能性の芽を摘んでしまうおそれがあります。

この言葉に出会って、僕は自分のおかれている立場でしかものを見られていないし、自分が今知っている範囲にとらわれて発言しているのだということを、いつも自覚していききたいと思いました。

言葉の正しい使い方

城南中学校 三年



「死ぬ」「消えろ」当たり前かもしれないけど、私はこんな言葉が嫌い。そして、誰もがそう思っているだろう。でも、私はこの言葉をよく耳にする。例えば、数学の練習問題を解けなかったとき、クラスメイトは問題プリントに向かって「死ぬ」と言っていた。また、友達同士の会話で冗談を交えながら「消えろ」と口にしてた。これって「矛盾」ではないだろうか？人に対してか、物に対してかは関係ない。このような言葉をなぜ、いとも簡単に発せられるのか分からない。これは言葉を誤った方法で使っているといえるだろう。

また、インターネット上での「誹謗中傷」も言葉の誤った使い方の一つだ。「何を言っても自分の正体はバレないから」「同じように言ってる人が他にもいるから」という理由で心無い書き込みをしてしまう人が多い。これで苦しんでいる人が後を絶たないのに、誹謗中傷が増える傾向にあるのは、自分の言葉が相手を傷付けてしまっているという「罪悪感」がないからだと思う。自分が発している言葉の恐ろしさに気付かないことが一番恐ろしいと思う。

では、「言葉の正しい使い方」とは何なのだろうか。言葉の正しい使い方の一つに「挨拶」があると思う。挨拶は、自分の気持ちを最も簡潔に伝えられる言葉だと思う。しかし、その短い言葉には人と人をつなぐ大きな力がある。私のクラスでは、プリントなどを前から後ろに渡すとき、後ろの席の人が前の席の人に「ありがとう」という。当たり前なことだけど、その光景に温か

気持ちになる。私がそう感じるのは、それが元々当たり前じゃなかったからだ。初めはみんな、無言でプリントを渡していた。しかし、ある友達が前の人に「ありがとう」と言った。それにつられて私を含めた周りの人が「ありがとう」と言い始め、いつしか隣のクラスにまで広まっていった。「挨拶の輪」が広がっていくのを私は感じた。「こんにちは」「ありがとう」がもっと気軽に誰にでも掛けられるような言葉になってほしい。

また、先ほど言葉の誤った使い方の例えとして、インターネットでの「誹謗中傷」を上げたが、インターネットならではの「言葉の輪」もある。ある動画サイトに、難病を抱えた子どものお母さんがその病院について動画を投稿していた。その動画には、「頑張って!」「病気で治るのを祈っています」などの応援メッセージが様々な言語で寄せられていた。国籍を問わず、様々な人が様々な言語で励まし合ったり、文化を伝え合ったりできるのがインターネットの良い所だと思う。

世界はたくさん言語、言葉であふれている。そのどれもが、自分たちの生活をより良くするために生まれたものである。人を傷付けるために言葉を発したり、インターネットに書き込みをするのは、不適切であり、言葉を誤って使っているといえる。世界に存在する「人を幸せにできる言葉」に目を向け、それを積極的に使っていくことが「言葉の正しい使い方」だろう。今の自分が誤った言葉の使い方をしていないか、一人一人が考えることが必要だ。

友達づくり

高田中学校 三年



ふざけあえる友達。好きな人について話せる友達。ふざけられるけれど変顔はできない友達。相手のイヤなところを言い合える友達。お世辞しか言えない友達。あなたにはどんな友達が居ますか。そして、どんな友達が欲しいですか。

私の考える理想の友達は、一緒にふざけることができ、どんな事にも本音で意見を言い合える友達です。例えば、日常会話で、くだらない事で爆笑して、どんなイケてるメンズがタイプかといった、しょうもない事で意見が食い違ったとしても変な空気にならず笑えて、本音で話せられる友達に会えたら楽しいだろうと思います。もし、本音でお話できない子が自分の中で一番仲の良い友達だったなら、気を遣って疲れてしまおうと思います。そして、相手が本当にそんなことを思っているのか不安になったり、完璧に信用をお互いにできないのではないかと思います。本音で話せないと言うことは、きっと相手にやめてもらいたい事など言えるわけでもないでしょう。なので、相手に冷める瞬間が訪れるなど、不満が募って絶交。もしくは、自然消滅してしまうのではないかと思います。

しかし、そう簡単に理想の友達ができるわけにはいきません。そこで、どうすればよいか考えました。私が思うに、類は友を呼ぶ。私がお世辞ばかり言い回るならば、同じような子たちが寄ってくるだろうし、逆に本当に思っていることを言えば、そんな子たちが寄ってくるんだと思います。なので、初めましての人にも、数回話したことがある人にも、最初のうちから私が本音で話して

いれば、「ああ、そういう人なんだな」と思われ、人が離れるなり、寄ってくるなり、「じゃあ私も僕も本音で話そうかな」と思っ
てくれたりするのではないかと考えました。

良い人間関係を築くにも、自分がストレスなどをため込まずに
過ごすにも、何事にも、素直でいれば、私の根っからの人間性を
理解し、受け入れてくれる人が何人かいてくれると思います。な
ので、誠実に、正直に、素直に、スリーSで生きていこうと思
います。

意味があるもの

光洋中学校 三年



「大丈夫?」「大丈夫ですか?」

友達や後輩、家族や先生は私を心配しながら声をかける。そう
いうとき、いつも私は申し訳ない気持ちになる。

私は三年前から、起立性調節障害という病気で、急に立ち上がつ
たり、ずっと立っていたりすると、血圧が下がりがめまいや頭痛が
して、ひどいときには倒れてしまう症状がある。私はバスケ部に
所属していて、運動後に倒れてしまうことがよくあった。

私が倒れたり、体調が悪かったりすると、まわりの人達はすぐ
に気が付いて対応してくれる。それはすごくありがたいけど、私
がみんなに迷惑をかけてしまっているような気がして、心が痛く
なる。私が元気だったらみんな気を遣わずにいられたのに、と思
うことがあり私は「大丈夫ありがとう。」「休んだら治るから。」
と言ってごまかすこともよくあった。厳しい練習メニューについ

ていけないし、みんなに迷惑もかかるし、クラブやめた方がまし
かも、と思うこともあった。

そう思いながら過ごしていたある日、チームメイトがけがをし、
私はその子の移動や手当を手伝った。そのとき、いつも私がして
もらっていることと重なり、少しみんなの気持ちが変わったよう
な気がした。私はその子を助けるときチームメイトの役に立てて
いることがとても嬉しかった。その日から考え方が変わり、私と
助けてくれているみんなに感謝の気持ちを伝えたい、恩返しがし
たいと思い始めた。誰かがけがをしたり困ったりしていたら、自
分から助けに行き、体調が悪くて見学しているときにはタイマー
や点付けなど、自分にできることは手伝うようにした。何より、
最後の郡大会で優勝して、みんなで県大会に行くことができるよ
うに、必死に厳しい練習に耐えた。それが私なりの恩返しだと考
えた。そのためにも先生達の指導のもと、チームメイトと一緒に
目標に向かって頑張りたい。そして自分のできる限り全力を出し
切って、感謝の気持ちを伝えたいと思った。

そしてついに、郡大会本番。一試合目は勝利。次の準決勝で勝
てば県大会出場が決まる。一、二ピリオドでは大差で負けていた
が、三ピリオドで逆転し、四ピリオドで三点差で勝利。私もチー
ムメイトもあまりにも嬉しすぎて大号泣。でも私が一番嬉しかっ
たことは、自分が試合に出て、走りきって、シュートも決めて勝
利に貢献できたことだ。そしてみんなで県大会に行けるというこ
と。

その後の決勝戦では、準決勝のけがの影響で、私を含む何人か
のレギュラーメンバーが思い通りのプレーができず、負けてしまっ
た。でも私達は満足していた。みんなで、目標だった県大会に行
けること、そして私はみんなに恩返しできたことが、何より嬉し
かった。

私の心の中の、あの申し訳ない気持ちは消えてなくなり、「ありがとう」に変わっていた。このチームだったから、先生達や家族が支えてくれたから、私のクラブ生活は充実していて楽しくできたのだと思う。そして、自分ができる一番の恩返しもしっかりとできたのだと思う。

私は最初、この病気が嫌だと思っていた。けれどこの病気のおかげで経験できた大切なことがたくさんあったから、今は感謝している。そして、この世界に存在するものは全て意味のあるものなんだと思う。この病気も、私がぶつかった困難も、自分やまわりの人達の存在も。意味をもって生まれて、私達に影響を与えてくれる。そう信じ、たとえこの先どんな困難にぶつかっても、それがもつ意味を考えながら、しっかりと乗り越えていきたい。

性の多様性



緑丘中学校 三年

皆さんはLGBTQプラスを知っていますか。LGBTQプラスとは、それぞれ性的指向、性自認を指したものです。Lはレズビアン、Gはゲイ、Bはバイセクシャル、Tはトランスジェンダー。Qはクエスチョニングです。

それぞれ説明をすると、レズビアンとゲイは、性的指向が同性の人を指し、バイセクシャルは、同性にも異性にも恋愛感情を抱く人のことで、トランスジェンダーは、身体と心の性別が一致しない人、クエスチョニングは性自認を決めていない人を指す言葉です。この他にも、I（インターセックス）A（アセクシュアル）

などの言葉などもあります。これらの性的指向、性自認をSOGIと呼びます。

一通り説明をしましたが、LGBTという言葉は知っているが、QやI、Aは知らなかった、という方、多いのではないのでしょうか。とある調査によると、LGBTを知っていると答えた方の割合は九十パーセント以上でしたが、QIAを知っていると答えた方は、二割程度しか居ませんでした。

このことから、LGBTの知名度は高く、世間的にも有名なことが分かります。しかし、Qプラス（QIA）の知名度は低く、世間的にもあまり知られていません。この調査は二〇二〇年に行われたもので、今集計をとると確実に知名度は上がりますが、それでもまだ低いです。

知らない、まちがった知識は、差別や偏見につながってしまいます。昔に比べると少なくなりましたが、0ではありません。誰もが暮らしやすい世の中をつくるには、もっと性の多様性に対する理解を、社会全体で広めていった方が良いと思います。

また、LGBTから繋がる問題として、同性婚があります。日本は、G7の中で唯一同性婚が認められていない国です。主要先進国でありながら、性の多様性に対する理解は、他の先進国と比べ、一歩遅れています。「すべての人に結婚の自由を」という活動を知っていますか。これは、同性婚を願う人達が、裁判などで国に訴えかける活動です。訴えかけるくらい、同性婚を望んでいる人達がいるのに、なぜ認めないのでしょうか。結婚ができないということは、たくさんの障害があります。資産を受け継ぐことができな、病院などでの面会（家族のみ）が認められないなど、さらに色々な障害があります。結婚の自由は同性同士異性関係なく、すべての人に与えられるべきだと思います。

性の多様性であるLGBTは、とても有名になり、理解者も増

えましたが、QIAはまだまだ知られていませんし、まだまだ問題があります。ただ、それらの問題を解決を後まわしにしていれば、差別のない、平等な国なんてつくれないと思います。性別関係なく、誰もが幸せになれる国を願っています。

いじめを根絶するためには？

城南中学校 三年



私は、小学校のうちはいじめなんて無縁の世界だと思っていました。けど、小学校五年生の時にそれは間違いだと思いました。友達からいじめられたのです。そのときはあまり覚えていませんが、腕を思いっきり強くつねられたことは今でもはっきりと覚えています。とても力が強く、腕に黒くあざができる程でした。私は当時、友達があまりいなかったので、相談できる人がいなかったのです。家で家族に「どうしたの？そのあざ」と聞かれ、私は正直にすべてを打ち明けました。その後、当時の担任の先生に相談をして、その友達を注意してくれたことで、私がいじめられることは、ほぼ無くなりました。あのとき、家族にあざのことを聞かれていなければ、今でもいじめは続いていたかもしれないと思うと、少し恐ろしく感じました。

今思うと、私のいじめがこの程度で済んで良かったと思っています。よくニュースでいじめのことを目にすることがありますが、大体のことが大事になった場合に世間に公に出るのです。中には自殺を図ったり、自殺してしまったりする人もいます。

私はなぜこんなにもいじめが起きるのかを疑問に思い、goo

gleというサイトを使い調べました。すると、「いじめる生徒」「いじめられる生徒」とは別に、直接手は出さないが、いじめをばやし立てたり、面白がったりして見ている「観衆」と呼ばれる生徒がいることを知りました。また、巻き込まれたくない、次のターゲットになりたくないという感情から見て見ぬふりをする「傍観者」と呼ばれている生徒もいて、これらの構造を四層構造と呼ぶことが分かりました。さらに、いじめが短期間では終わらずに、持続的に拡大していくのには、いじめる生徒といじめられる生徒だけではなく、観衆や傍観者の立場にいる生徒がいじめに大きく影響していることが分かりました。それは、観衆がいじめを積極的に肯定することでいじめる生徒が観衆にいじめを認められたと認識し、いじめを悪化させてしまうからです。それだけではなく、傍観者がいじめを暗黙的に支持してしまう事で、いじめる生徒もそれを悪いことだと考える機会を失ってしまい、継続的にそしていじめがより深刻化してしまうこともあるのです。さらに、いじめられる生徒は先生や保護者に言いにくい場合が多く、いじめの発見が遅れてしまう原因にもなってしまっているのです。

このことから、いじめの大きな原因は、傍観者は多いのに、いじめられる人に対して手を差し伸べる人が圧倒的に少ないことです。いじめられている生徒に対して傍観者のうちの一人でも手を差し伸べられていれば、自殺を防ぐ事ができたのではないのでしょうか？

これを見てからよく考えてみると、自分自身も知らず知らずのうちに傍観者になっていたかもしれないと思い後悔しています。これからはいじめられている人を見つけたら、傍観者になるのではなく、手を差し伸べられる人になりたいと心から思います。